

立命館経済學

第三十卷 第六号

昭和五十七年二月

内 容

論 説

- 現代資本主義における労働者権利(一) ……………三 好 正 巳 1
経済学史の意義とその方法(完) ……………上 野 俊 樹 25
北東イングランド地域産業史分析序説 ……………若 林 洋 夫 83

研 究

- 低成長期における鉄鋼巨大企業の生産管理 ……………山 本 幹 夫 151
構造不況地域における離職者の動向と雇用問題 ……………湯 浅 良 雄 189

研究ノート

- 「窓口指導論」の課題 ……………河 野 快 晴 241

書 評

- 坂寄俊雄, 塩田庄兵衛編『労働問題の今日的課題』…向 井 喜 典 252
共同研究室 …………… 297
立命館経済学総目次(第一巻—第三十巻)…………… 311

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第三十卷・第二号

論説

アメリカ巨大企業G E社 (General Electric Co.) の組織変革(一)……………坂本和一

——事業部制組織・マトリックス組織・戦略事業単位——

「社会的共同業務」と国家(上)(二)……………上野俊樹

——国家の階級性と公共性の理解の前進のために——

イギリス石炭鉱業と初期鉱山立法……………若林洋夫

——一八四二年『児童雇用委員会』報告とアンシュリー法案を中心として——

政策科学と計量経済モデル(二)……………山田彌

研究

『金融資本論』における株式会社、独占と金融資本(下)……………佐々木秀太

「流通手段の前貸と資本の前貸」について……………浅田和史

——久留間 建氏の所説の検討——

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第三十卷・第三・四・五号

記念論文集の刊行にあたって……………天野和夫

八〇周年記念論文集によせて……………小檜山政克

兵器の共同研究・開発・生産……………木原正雄

勤労者家計の統計的研究……………関 彌三郎

二つの独占理論……………小檜山政克

欧州通貨制度(EMS)の発足とその運営について……………清水貞俊

西ドイツ経済専門家委員会答申の政策論理……………坂野光俊

価値諸範疇の体系性について……………杉野 圀明

マルクス経済学における企業論の具体化……………坂本和一

経済学史の意義とその方法(三)……………上野俊樹

資本制の存続条件としての産業予備軍……………甲賀光秀

石油危機における価格構造変化の多部門分析……………山田 彌

国際収支の均衡と貿易の均衡……………岩田 勝雄

景気安定化政策と国債問題……………北野正一

資本主義の基本矛盾について……………角田修一

大正期・昭和初期の信用組合論……………伊藤正直

Aggregateされた輸入需要関数における関数形と価格の同時特定化について……………本田 豊

発行所 立命館大学経済学会